

ellman RFナイフを使った眼形成手術の基本解説

柿崎裕彦 愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科

はじめに

眼形成手術では、形成外科的な手技を用いて眼球附属器の治療を行います。眼科手術の基本手技とは異なる部分が多いわけですが、一説によると、眼科を受診する患者の30～40%は眼形成関連と言われており、無視できる道理はありません。眼形成の基本手技をいったん身につけてしまえば、有力な武器になることは間違いありません。以下に、それぞれの基本手技を挙げて解説します。

1 Atraumatic Techniqueを心がけましょう！

まぶたの皮膚は人体の中で最も薄いため、乱暴な操作で容易に傷ついてしまいます。そのため、atraumatic techniqueを知っておく必要があるのです。組織が傷ついてしまった場合、そこには瘢痕が形成され、引きつれの原因になったり、また、茶色く色がついてしまうこともあります。

Atraumatic techniqueを実践する上で最も重要なことは、鑷子先端の形状の把握です。鑷子には、有鉤鑷子と無鉤鑷子（図1）があります。感覚的には無鉤鑷子の方がatraumaticに感じられますが、点でもつほうが面でもつよりも組織への挫滅が少ないので、有鉤鑷子の方がatraumaticとなります。この意味で、針先（図1）は最もatraumaticであり、skin hook（図1）もこの延長線上にあります。無鉤鑷子を用いる場合でも、組織を強く把持せず、最小限の力で把持し、組織の挫滅を最小限にする配慮が必要です。

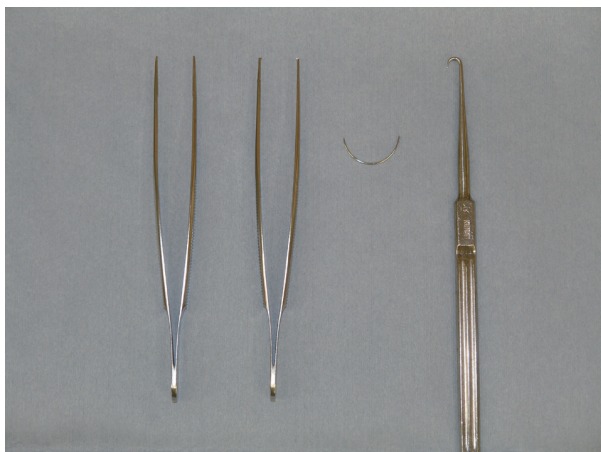


図1

2 痛くない局所麻酔を行うためには？

30Gや32Gのような細い針を使うのは当然として、その他、針を刺す時に、皮膚の痛点密度を小さくする必要があります。このためには、できるだけ刺入点の皮膚を伸ばすようにします（図2）。この時、眼球に針先が向かわないように、針の根元を手前に曲げ、また、針の注入孔が上に向くようにしておきます。注射器の目盛を読めるよう、目盛が手前にくるようにしておくとう便利です。

局所麻酔時の痛みは、「麻酔液の温度」、「酸性度」、「注入速度」に依存します。この観点から、麻酔液を常温～体温ぐらいにしておき、ゆっくりと注入することが重要です。小さいシリンジを使用すると、ゆっくりと注入することが容易になります。

麻酔液の水素イオン濃度は3程度の酸性で、そのまま使用すると蜂さされと同じ様な痛みとなります。従って、酸性度を緩和するためにメイロン®のような緩衝液を混合することも有効です。この際、キシロカイン®を5、メイロン®を1ぐらいの割合で混合します。

リドカインテープは美容外科では必須のアイテムですが、保険診療では金銭的に余裕があれば使えばいいという程度に考えておけばいいと思います。